

「絶対安全な状態は永久にこない」

(原子力規制庁)

そんな原発はもういいません！ 私達はふるさとを守りたいだけです



玄海町のみなさんへ

2009年12月2日は玄海原発3号機でプルサーマルが営業運転を開始した日です。

私達は“プルサーマル”をきっかけに、原発・放射能の恐さに気づき、核のゴミのツケを未来に世代におしつけてはならないと、やむにやまれず行動をはじめた市民の集まりです。

2011年3月11日、福島第一原発事故発生。たくさんの命、暮らし、コミュニティ、自然を

破壊してしまいました。

玄海原発はすべて止まってから丸2年。電気は十分足りていることもはっきり分かった今、「原発はもういらぬ。ただただ、ふるさとを守りたいだけ」の気持ちをみなさんと共有したく、今日も仲間とともに玄海町にやって来ました。お時間のある時に、このチラシをお読みいただき、みなさんの声をお聞かせください。



フィルタ付きベント(※1)はセシウムは減らせても、「希ガス」っていう放射能は素通りだって！
「爆発するのを防ぐため、膨大な放射能を出すから、覚悟しとけ」ってこと？

福島のような事故は起きないと思ってたら起きちゃった…。これまでの『原子炉立地審査指針』(※2)を残しておく、今ある原発周辺の住民が大勢移住しなければならぬ。指針が合わないから指針自体をないものにしちゃったって？

事故が起きたら、放射能に汚染された土地にはもう戻れません。これでは「避難訓練」じゃなくて「移住訓練」！

福島事故は終わってないし、原因も特定できていないのに、新しい基準がどうしてできるの？「世界最高水準の安全」なんて、どうして言えるの？

6:17

原子力規制庁の職員を初顔
「説明責任を果たしたい」
協議会の特別委

田口達也課長補佐

ここまでいったら絶対安全な状態になるというのは永久にこない中で

11月18日、佐賀県議会原子力特別委員会にて、原子力規制委員会の課長補佐は「安全ですという、安全神話になるので、そういわない。我々が言うのは、この原発はこれまでの知見によるこの基準を満たしているというところまで。ここまでいったら絶対安全な状態になるというのは永久にこない」と発言。

九州電力は玄海原発で炉心溶融が起きてても炉心に一切注水せず、溶けるに任せるだけ！そして原子炉圧力容器を突き抜けて格納容器下部に落下。格納容器の天井からシャワーのように水をかけて下部に水を張り、落下する溶融燃料を待ち受け冷却するだけ。規制委員会もびっくり！

原発の安全とは何なのか
50時間の議論

炉心溶融
'ポットン便所'
でいいの?

イメージ

(※1)フィルタ付きベントは、蒸気をフィルターに通すことでセシウムなどを約1000分の1に減らす、が、「希ガス」と呼ばれる別の放射性物質は素通りしてしまう。希ガスは放射線量が比較的早く減るが、事故当初に出る量はセシウムよりはるかに多く、ベント直後の周辺放射線量を大きく左右する。福島第1原発1号機のベントでは、セシウム137とセシウム134の20兆ベクレルと、やはりフィルターで減らせるヨウ素131の700兆ベクレルに加え、希ガス4000兆ベクレルが放出された。

(※2)「立地審査指針」では「原発は住民に著しい放射線障害を与えないこと」と定め、原発の敷地境界での放射線量を重大事故時でも250ミリシーベルト以下に抑えるべきだとしていた。「格納容器はこわれない」ことを前提としていたが、「格納容器が壊れる」ことが前提が変われば、今ある原発周辺の莫大な土地の買収が必要となり、原発の存続は事実上不可能となる。

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会

佐賀市伊勢町2-14
TEL : 0952-37-9212
FAX : 0952-37-9213

E-mail : saiban.jimukyoku@gmail.com
http://saga-genkaijimdo.com/
http://www.facebook.com/genkai.genpatu